

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈4月11日（金）放送分〉

テーマ「奄美の民話や昔話」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、毎月第2金曜日にお届けする、「奄美の民話や昔話」シリーズの第1回、「アサナローの花」です。

昔、喜界島の浦原^{うらばる}にとっても貧乏な夫婦がいて、二人の間には子どもがいませんでした。

ある日、夫はこれではいけないと、お金儲けをしようと羽里^{はざと}という大きな村に行くと、見知らぬ一人の男に出会いました。実はこの男は大泥棒でした。大泥棒が、「お前はどこの何という者か。」と言うので、夫は「私は浦原の何々という者だ。」と答えました。大泥棒はそうかと言うとそのまま行ってしまいました。

それから大泥棒は浦原にやって来て、一人で留守番をしている妻に向かって、「お前の夫は、もうとてもお前を食わせていくことができないから、お前を連れてどこへでも行ってくれと俺に頼んだのだ。」と妻を騙^{だま}して、どこかへ妻を連れ出して行ってしまいました。

夫が家に戻ってみると、妻がいないので、どこへ行ったのだろうと心配して、あちこちを探しましたが、とうとう三年経っても見つけることができませんでした。

ある日、夫がいつものように妻を探して大きな川の端^{はし}に来ると、そこに白髪の老人が居て、「お前は何をしている。」と聞きました。夫は、「私は突然いなくなった妻を探して三年になりますが、どうしても探し出すことができません。」と答えました。すると老人は、「お前はいくら苦勞しても妻を探し出すことはできないだろう。」と言いました。

それで夫が、「おじいさん、おじいさん、もし私の妻がいる所を知っておられるのならば、どうかこのとおりに何度でも探してみますから、妻の居場所を教えてください。」と頼みました。すると老人は、「お前の妻は大泥棒に連れられてどここの山の中に暮らしている。その山に行くと大きな家屋敷があって、門の片方の端には鉄の棒が立ててあるから、その棒で地面をドンドンと三回叩け。そうすれば妻が出てくる。」と教えてくれました。

夫はとても喜び、老人に教えてもらった山へ妻を探しに行くと、大きな家屋敷があり、老人の言ったとおりに、門の片方の端に鉄の棒が立ててありました。夫が鉄の棒で三回地面をドンドンと叩くと、本当にいなくなった妻が出てきました。

久しぶりに夫に会った妻は大変喜び、夫を屋敷の中に連れて行って、うんとご馳走^{ちそう}をしました。屋敷には立派なお酒がたくさん並んでいましたが、あまり夫に飲ませると酔っ払ってしまうので、これは一昨年^{おととし}の酒、これは去年の酒、と少しだけ味見をさ

せました。それから妻は大泥棒が大切にしていた一番立派な刀を取ってきて夫に持たせ、大きな瓶かめの中に夫の身を隠し、鍋で瓶びんに蓋ふたをしました。

夜になると、大泥棒が屋敷に帰ってきました。実はこの家には「アサナロー」という不思議な花があって、家の中に男がいれば男おとこ花ばなが、女がいれば女おんな花ばなが、そこにいる人数だけ咲くようになっていました。

大泥棒が家の中に入ると、アサナローに男花が二つ咲いたので、大泥棒はそれを見て怒って、「お前は家の中に男を隠しているな。」と言って妻を叱しかりつけました。妻はとっさに機転を利かして、「いえいえ、それはお腹の中に男の子ができたからです。」と答えると、大泥棒はその言葉を聞いて大喜びになり、「そういうことならば、今夜は盛大にお祝いいだ。今夜は酒さけを井いで飲のもうか鉢はちで飲のもうか。」と言いました。

妻は大きな鉢せうびんを持ってきて三年寝かせてある強い酒を大泥棒に存ぞん分に飲のませ、大泥棒がすっかり酔っ払ったのを見て、今度は用意してあった熱い風呂に入らせました。大泥棒が風呂の中で息をハアハアと荒く弾うませていたので、妻は今のうちだと判断して夫を大瓶おおがめから出だし、ついに夫は妻を自分から奪うばった大泥棒を成せい敗ばいすることができました。

それから夫婦はアサナローの花を持って元の家に帰り、その花を王様に差し上げました。王様はとても喜び、「私はもう世の中に何一つ欲しい物はないとばかり思っていたが、このような宝物ほうびもあるのか。褒美かなを何でも思い通りに叶かなえてやるぞ。」と言いました。

夫妻は、「それならば、人を千人と馬を千頭、それと一日のお暇ひまをください。」と答えました。王様はその望みを叶えてあげると、夫婦は千人の人に馬を一頭ずつ持たせて大泥棒の家屋敷に行き、千頭の馬にありったけの宝物を積んで帰ってきました。

やがて夫婦は驚くほどの大金持ちになり、幸せに暮らしたということです。

さて、今回のお話はいかがでしたか。このお話に出てきたアサナローの花が、実際に花屋さんで売っていたとすれば、いくらぐらいの値段になるのでしょうか。いずれにしても相当な値段になるのは間違いないでしょうね。

お話の中で、隠れている夫の存在を大泥棒に気づかれそうになった妻が、とっさに機転を利かして上手こまかく誤魔化ごまかす場面がありましたが、なかなかできるものではありませんね。やはり心の通じ合った夫婦愛の成せる技と言ったところでしょうか。見事にめでたし、めでたしのラストだったと思います。

このように奄美図書館には、郷土に伝わる昔話を紹介した本がたくさんあります。ぜひ図書館にいらして、いろいろな本を手にとってほしいと思います。職員一同、皆様のご来館を心よりお待ちしております。以上、鹿児島県立奄美図書館でした。